

古着「お直し文化」広がれ

服の染め替えや縫製加工などを通して衣料廃棄の削減に取り組む一般社団法人「REWEAR」が



京都市内で発足した。古着に新しい価値を与え、再利用につなげるアップサイクルの普及を目指しており、年明けには、染め替えに使えるギフトカードの発行などを計画している。

中心となったのは1915年創業の染色加工会社「京都紋付」（京都市）。礼装や喪服に欠かせない黒紋付きを染めてきたが、生活様式の変化に伴い受注が減少。2013年に古着の染め替え事業を始めたところ、サステナブル（持続可能）なファッションとして全国的に注目された。

一般社団法人 京都で発足

京都の世界遺産・二条城などで9月に開かれた記念イベントでは、黒色に染められ、生まれ変わったジャケットやワンピースを展示し写真。社長の荒川徹さんは「ここ数年、特にSDGsの追い風を感じている。アップサイクルを普及させ、同時に伝統技術を守っていきたい」と意気込む。

今後、法人では染色や再生繊維の分野の技術を持つ企業やデザイナーらとの連携を進め、服の再生を進めていく計画という。代表理事の京都工芸繊維大名誉教授の木村照夫さんは「かつて日本にあった、染め直したり縫い直したりして着続ける『お直し』の文化を、もう一度作っていければ」と話している。